



## 講話：「おもしろおかしくロータリー」

パストガバナー 堀場 雅夫

47

京都ロータリークラブの堀場でございます。今日は、新会員セミナーの講師にお招きを頂きまして、大変光栄に存じております。ただ、「新会員セミナー」というのに、大分古い人もたくさん来られているようで、ちょっと話にくいこともあるのですが、お許しを頂ましてよろしくお祈りいたします。

今日はせっかくの土曜日に、セミナーにご出席をされたわけですが、朝ウキウキとしてここへ来られた方は、私も含めてお一人もないというふうに思います。私もロータリアンになりましてから四十数年たつわけでございますが、ロータリーの集まりで、朝楽しく出た日は、今までかつて一度もございません。ただ、ゴルフの時とか、旅行の時とか、一杯飲む時は、これはもうウキウキして出るのですが、こういうセミナーだとか、こういうのは本当に面白くないと思ってしまうのですが、ただ一つ救われることは、何回かに1回ですけども、「あっ、今日来て案外よかったがな」と思うことがあるわけです。今日がそういう日であることを、皆さんと一緒に祈りまして、約1時間ほどのお話をさせて頂きたいと思っております。

できたら後で、3つか4つ質問をお受けしたいと思うのです。日本人という失礼かもしれませんが、大体日本のこういう会で質問といっても、サクラをつくっておかないと絶対質問しないですね。ですが、ロータリアンはそんなヘジテートする人ではなしに、特に新会員の方は、色々ロータリーについて問題にされていることがあると思います。特に今日の私の話がよければ、そういうことがドンドンと頭の中から、イメージが出てきますので、もし質問が活発でなかったら、ブーイングと思ひまして、「あなたの話が面白くなかった」と。もし質問が活発に行われれば、私の話が良かった、という自己判定を致しますので、是非いい質問を後で何個かして頂ければ、大変ありがたいというふうに思います。

ロータリーというのは、甚だ妙なものでありまして、入り込むとずるずると入り込むのですが、また嫌になると、「こんなしょうもないもん」と、そういうのがバイオリズムみたいに続くのです。それがまた魅力的と言え、魅力的かもしれないのですが、こういうスランプの時は、ちょっと自分の身を置いておいて、心霊術か何か知りませんが、自分の身から自分の魂だけを抜くのです。その魂が自分のロータリアンを見たときに、「一体こいつ何考えてるんやろう」とか、

そういうことを思うと、「あっそうか、そうか」とこういうふうに分ってくるんです。私も時々そういうことをやっておりますが、案外道が開けるわけでありませぬ。

ロータリアンとロータリーの関係というのも、なかなか同じと違うのです。ロータリーはロータリーやけど、自分はロータリアンとしてどうか」ということも、なかなか難しい問題であります。一つ言えることは、ロータリアンだから税金が安くなるとか、お金が儲からないとか、儲かるとか、そんなことは絶対ないんです。ですから、別に嫌なら辞めたらいいのです。別に罰金取られるわけでも何でもない。面白かったらやっていたらいいんです。

ただ、クラブによって違うかもしれませんが、会費やニコニコ箱とか、クリスマスの何かとか、大体年に50万ぐらいのお金は、やはりかかると思っています。それと、大体50回ぐらいの例会で、1時間と言いますが、前後の時間も入れて、それからあと委員会や何やかんや出ると言われて、時々は出ないと格好悪いとかいっているので、そんなのを全部入れると、やっぱり年間100時間は最低あります。熱心な人は別ですよ。ロータリーが命なんて人は、むちゃくちゃかかっていますけど、普通のロータリアンでも、年間100時間は取られますよ。やはりちょっと気を遣いますね。「こんなこと言いたいけど、言うたらあの人、怒りよるんちゃうやろか」とか、このへんはちょっと妥協しないといかんし、ちょっと気を遣います。

ちょっと気を遣って、100時間使って、50万使って、果たしてこれで採算が取れるかどうかという考え、これ打算的かもしれないけれど、人生というのは限られているんですよ。もう今日この瞬間というのは、1億出そうが、100億出そうがないんですよ。この瞬間は、この瞬間で終わってしまう。そういう人生の非常に大事な時間をどう使うかということは、私は時間をやはり大切にしたい。特に私のように、もう平均年齢をはるかに過ぎまして、あと何時間とか、特に晩飯食べる時に、「あと何食や」と思うんです。しょうもないやつと、飯食べた時間、1食損しますから、だからやはり面白くないかね。これが真髓でありますから、私もロータリーに100時間ぐらい使っているから、ロータリーを何が何でも楽しく過ごそうというふうに頑張っているわけです。

ただ、私今日、実はちょっと問題を持っているんで

す。というのは、先般、実は『人の話を聞くな』という本を出しました。これは売れへんと思っていたら、これが案外売れて、「やはり世の中には人の話を聞くのを嫌いな人がたくさんいるな」と思っているんですが、その著者がここで人に話をするとするのは、ちょっと問題とと思っています。それは本当に話を絶対聞くなということではなく、人の話を聞く時には、やはりその問題について、自分は自分なりの一つのフィロソフィーを持つべきだと。それに対して、その人の言うことと、自分の考えを照らし合わせてみて、「しゃべりよるやつも大体わしと同じ考えやな」とか、「あっそうか、そういう考えもあるんやな。そらおもしろいな」とか、「あいつあほと違うか」とか、色々そういう判断ができます。自分も聞く時には、ただ白紙で聞いていても、その話はいい話であっても決して感激しないし、悪い話を聞いても、あまり面白くないと思わないということになります。ですから、時間ももったいないから、人の話を聞く時には、やはり自分は自分なりの一つの考えを持った方がいいんじゃないですかということをお願いしたわけです。

さて、急に話は変わりますが、今の日本の状況というのは、或いは世界と言ってもいいかもしれません。これはやはり「夢多き21世紀」と言われたのですが、既に3年たちました。決して夢は多くない。いろんな意味での閉塞感というのが漲っておるわけで、いろんな事件が起こっています。この事件は決して偶発的なものではないと思います。偶発的でないがゆえに、それが一つひとつ非常に根深い原因があるわけです。結果としてこういう問題が起こっておると。ということから、簡単に偶発的なものだったら、取り除くことができますが、根が深いとなかなかこれは簡単に取り除くことができないと思うわけです。これらの問題は、切り口によって全然見方も変わってくると思います。しかし、最大公約数的に考えて、私は近代西洋文明というものに限界が来たというふうに思うわけです。限界が来たから、それからどう脱却するか、あるいは全く新しい考え方で世の中が進んでいるかということ、そうではない。世界全体が立ち往生をしている。そこに何と言うか、沈滞した嫌な閉塞感というのが、世界中に、暗雲が立ち込めているというふうに思うわけです。

近代西洋文明とは、非常に簡単に言えば、自由主義経済が一方にあり、一方に科学技術というものがあっ

48

て、この自由主義経済というもの、科学技術というものが、車の両輪で進んでいるわけです。ではこれによって、社会主義国が最近ほとんどなくなってしまいましたが、自由主義国家、大変大きな利益を得ましたし、特に日本は太平洋戦争敗戦後、本当にゼロから僅か半世紀の間に、世界的に立派な経済大国になったと。これは正に近代西洋文明というものを、謳歌したわけでありませぬ。正に近代西洋文明のお蔭で日本もこのように、大きな発展を遂げることができました。

しかし、ここで21世紀に入って、やはり近代西洋文明のシステムというもの、一つの致命的な欠陥というものも出てきたというのが、現状ではないかと思うのです。これを非常に簡単に考えて、この自由主義経済、いわゆる資本主義を前提とした自由主義経済というのは、非常に単純に言えば、たくさん作ってたくさん売るといことなんですね。たくさん作ることに限っては、地球の資源をやはりたくさん使わねばならない。作る時には、地球のエネルギーをたくさん使わねばならない。そして、たくさん売るといことは、どこかで消費がなかったら、売れませぬから。ドンドン消費をする。消費をするといことは、どこかで廃棄がなかったら、ドンドン物がたまりませぬから、ドンドン捨てていかないと消費できないわけです。

このサイクルを考えていくと、一番今が21世紀の大きなテーマの一つである地球環境ということにおいては、たくさん資源を使い、たくさんエネルギーを使い、そして廃棄することによって、またそこに廃棄物を処理するための大きなエネルギーと資源を使う。これで経済が発展するといことは、これはもう地球環境において、マイナス要素であるといことは、だれも否定できません。ノーベル賞の経済学者であろうが、サイエンティストであろうが、これを否定することができない。ただ、増えたものに対して、エネルギーの使い方とか、あるいは消費したものの、廃棄したものに對する処理の仕方に、できるだけ効率のいいエネルギーの使い方をしましようといことは、もちろん可能です。しかし、プラスがマイナスになるといことは、絶対にないですね。空気がきれいになるといことは、絶対にない。土地がきれいになることは、絶対ありません。一体それをどういうふうにするのかということですね。

もう一つ、この自由主義経済の致命的な欠陥、これは何か。自由主義経済というのは、弱肉強食、強いやつ

が弱いやつ肉を食う。強いやつはますます太る。弱いやつはますますやせていくということですね。だから日本でも、実力主義とか成果主義というのは、みなそうです。やるやつにドンドンサラリーをたくさんあげましょう。やらないやつは、ボーナスも出しませんよということは、正にこれは弱肉強食なんですね。それはもちろん会社の中でも行われる、地域の中でも行われ、そして国家間でも行われているわけですね。これは原則として、スクラッチプレーです。ゴルフの場合でしたら、ハンディを10くださいとか、8つくださいとかで、ハンディをもらって、対応する競争ができるわけですが、残念なことには経済の闘いというのは、「お前のところは弱いから、10%、20%、原価安くみてやろうか」と、そんなこと言ってくれませんか。全部これスクラッチプレーですから、そしたらシングルの人と36の人とだったら、絶対36の人がチョコレートを取られますね。もう決まったことです。ということは、弱い国はドンドン弱くなる。強い国はドンドン強くなります。

今の世界で色々戦いが行われている。もちろんこれは民族の問題とか、宗教の問題とか色々あります。あるけれど、その大元は何か、根本的な問題は何か。これは富の偏重なのです。色々と理屈は言うけれど、結局ドンドン儲かっている国と、ドンドン疲弊している国がある。けしからん、これをやっつけるためにはどうしたらいいか。シングルの人と36の人とゴルフをして、シングルに勝つ方法は何か。白釘をもって、シングルのやつが打った途端に、ボールの落ちたこっち側に白釘を打つんですよ。そうすると、そいつはOBですよ。自分の打つ時には、白釘を全部はずしてしまったりどこを打ったってOBはないですね。これは何かあって、これはテロなんですよ。テロしか、アウトローしかシングルの人に勝つ方法はないんです。だからテロが行われている。テロの原因は何か。これは富の偏重なのです。非常に明確な答えだと思いますね。

それが何故、そのまま放ってあるかという問題を、一つ提起できるわけですが、もう一つ科学技術の進歩、これは乗り降りのこっち側です。車の両輪のこっち側、科学技術の進歩というのは、日本は、戦後科学技術の進歩というものがあったために、日本の国はこのように今立派になっている。何か。食う物がなかった。その時に、農薬と素晴らしい肥料を作った。それによって米は昔に比べてめちゃくちゃ増産できるわけでは

ね。それで日本は飢餓から救われました。それから、病気が色々ありました。新薬が生まれ、医学が発達したために難病、奇病と言われているものが、ドンドンなくなってきて、今は世界の最長寿国になっていますね。また、家庭電化製品がドンドン発達した。これによって家内労働というものが、徹底的に少なくなりましたね。それによって、女性の職場進出というものが可能になりました。これによって、やはり全然世の中のライフスタイルというのが変わる。その上に、航空機の発展等、トランスポートの発展によって、日本人は、世界中どこへでも行けるようになりました。それによって色々世界の新しい文化とか文明というものを、ドンドン取り入れた。それが日本の国の中にフィードバックされて、日本が本当に素晴らしい国になったのはこの科学技術の進歩です。

大きな大きな恩恵を得たことは事実ではありますが、一つは悲しいことに日本の戦争の終わりの引き金を引いたのは、やはり原子爆弾という、核エネルギーの使用ということですね。これは今いろんな格好で抑えられています。核エネルギーを戦争に使う、兵器に使うということによって、外交問題というのは、非常にデリケートな問題になっている。しかし、簡単に言うと、北朝鮮がなぜ核にこだわったりするかというと、今や正直言いまして、核を持ってない国は独立国ではないんです。だから日本に核を持ってということ、私は言いたいわけではございませんが、正直言って、一発でも原子爆弾を持っていれば、いざこっちは死ぬ気になったら、どっと致命的な打撃を与えることができます。「まあまああま、そう言わんと」とこうなるんですよ。そういうやっかいなものが、依然として、世界中に散らばっているということです。

もう一つは、科学技術というのが、本当に生命の分野に相当深く立ち至った。もちろん、これで遺伝子が発見され、それによっていろんな病気も治り、あるいは治療法もダントツに進んだ、素晴らしいことがいっぱいあります。しかし、クローンに代表されるように、本当に自分と同じようなものが、技術的にはもう完全に人間のクローンもできるわけがあります。

私は、個人的にはほしい。2、3匹いたら、これはよろしいです。ここでこんな難しい話をしていても、自分のほんまもんは京都で遊んでられるしね。それで、心臓の調子悪くしたら、「おい、心臓くれ」とかね。もうこんな勉強会なんて、「おまえ勉強しとけ」とか

ね。もう何でもできるわけでありますから、これは本当にクローンは、個人的にはほしいけれど、クローンというのがドンドンでき出したらもう訳分らんようになりますね。「わしがほんまの堀場や」って言うたら、「いやわしがほんまや」って、それだけでも毎日喧嘩せななりませんね。そういうことがあって、科学技術というものが、ドンドン進んでいくことは、今までは科学技術の進歩というのは、必ず人間の幸福をもたらすという完全な比例関係にあったのが、「おい、ちょっと待てよ」と、これは本当に人間に幸福なのかどうかということ、必ず検証する必要が出てきましたね。

ですから、経済の活性化ということは素晴らしい。だけど、地球環境の問題がある。富の偏重の問題がある。一体これはどうして律するのか。だれがどう決めるのか。法律で決めるのか。できません。罰則、できません。どうするんや。これは一人ひとりの人間の倫理観以外にはできない。科学技術もそうです。特に科学者というのは、ドンドンドンドン新しいこと、相手がこれやったらその上をいこう、その上いこうとなります。これは、人間の向上心ですよ。現在、地球上の生物の中で、人間が完全に地球を制覇しているのは、この向上心があってドンドンドンドン成長していくからであります。

でも、先ほどから申し上げているように、ただ科学技術がドンドンドンドンと倫理観なしに、発達していったらどうなるのか。これも法律で決めることはできない。罰則を設けてもだめである。そうすると、やはりこれも個々の人間の倫理観に頼る以外に方法はないわけですね。私はやはりこれは、神様が人間に与えた罰ですね。業ですね。動物と人間の一番の違いは何か。動物、例えばライオンいますね。向こうからおいしそうなバンビが来た。ライオンはおいしそうやってガブッと食いますね。おいしいなって。嫁さんにもちょっと食わしたるか、子供にも食わしたるか、みんな家族でガーって食べますね。「おいしかったね、お父ちゃん」と言う。それで「お腹いっぱいや」って。またもう一匹来た。お腹いっぱいの間は、これは絶対食べません。

人間はどうですか。「もうあと10万円あったらええな」と言う。それなら「10万円あげよか」と言う。10万もたら、「10万円って、もうちょっと、あともう10万あったらもってええな」と言う。それで、もう10万あげる。「やっぱり、10万、20万ではあかん。50

万やないとあかん」って、50万。儲けている人でもそうです。1億儲けたらいいわと思って、1億儲けたら、これぐらいで1億儲かるなら、もうちょっとがんばったら2億儲かるで、10億儲かるで、100億儲かるで。あんたそんなに儲けて何するの。目的ないもん。人間って腹いっぱいになりませんね。何ぼでも食いよるわけです。

それはどこが違うのかということですね。やはり神から与えられた欲というものと、倫理というものが、動物の場合は、一つのポイントでコントロールされてくる。人間の場合は、欲の方と倫理の方と二つのコントロールタワーがあるんですよ。この二つのコントロールタワーのバランスですね。「あれほしい。しかし、あれは人のものや。あれ盗ったらいかん、そやけどほしいな。いや、盗ったらいかん、ほしいな」、と常にこれですよ。これが、人間の苦の始まりなんですよ。人間は永遠の悩みを持って死んでいくわけですよ。

今までは、洋食でいったら、オードブルみたいなものです。これから、ちょっとメインディッシュに近づいていこうと思う。こういう人間がものすごい悩みを持っています。

ここでちょっとロータリーの話をしたいのですが、ロータリーが僅か1世紀の間に、全世界に百何十万というような、しかもそれはしょうもない人と違いますね。一流と言うたらちょっと言い過ぎかもしれませんが、社会におけるそこそこの人間をどうして集められたんやろう。先ほどから言っていますように、ロータリーに入ったら税金安なるとかね、レストランで割引あるとか、そんなんはないんですよ。どっちかといったら、まだお金も使わんならん、時間も使わんならん。どこに秘密があるんだろうかと考えると、私はやはり世界中の心ある人が、民族とか、種族とか、国家とか宗教とかそういうことを一切問わずに、この我々の一番大きな悩みである欲というものと、道徳というものの狭間に入って、悩み苦しんだ人達が、何か救いを求めていた。それがロータリーではないか。それがいわゆる「奉仕の理想」というこの言葉に惹かれて、ロータリアンになったのではないかというふうに私は思います。

人間というのは、しかし非常に複雑なものです。本当は、「だれだれさんはこんな人」なんて言えません。非常に複雑で、一人の人間で最低でも4つの顔を持っていますよ。それは何か。これは身内です。子供

とか、嫁さんとか、親とか、いわゆる肉親、親族、これに対して、人間は1つ顔を持っていますね。もう1つは、ほとんどの人が職業に就いていますから、職業人としての顔がありますね。それから、やはり自分は日本人であり、何々の町に住み、何々のところに住んでいるという社会人としての顔を1つ持っている。もう1つは、生物の中の1つの種類である人間という生物としての顔を持っている。最低どんな人でも4つの顔を持っているんです。

この4つの顔というのは、みんな違うんですよ。自分が子供に接する、嫁さんに接する時の顔と、社会に出た時の顔と職業人としての顔と動物としての顔、これは違うんですよ。そうすると、「こいつは4つも顔持ってあって、こいつはほんまはどれなんや」みんな本当なんですよ。だから、どれが嘘で、どれが本当か、その4つの顔というのは、はっきりどんな人でもあるんです。範囲の狭い中で、肉親に対してはめっちゃくちゃベタベタするのに、他人に対して職業の時なんかは、むちゃくちゃ厳しいとかね。「へえ、信じられへんな」と思うような人もあるし、割合に肉親に対しても他人に対しても、比較的近い考えを持っている人もありますが、しかし違うんです。違って当たり前。同じ人っていうのは、世の中に絶対ないし、ややそれに近い人といったら、キリストとか、お釈迦さんとか、こういう人は、あるいはこういう4つの顔が非常に近い。それ以外の人は、みんな4つの顔を持っているんです。

そこがまたロータリーの、する賢いところなんですよ。この4つの顔に対して、全部奉仕というのをつけたんですよ。クラブ奉仕、クラブっていったら身内です。社会奉仕、社会に対する奉仕です。職業に対する奉仕。もう1つ生物というのは、これは国際ですよ。地球ということやから、地球のみんなに対する奉仕、これは絶妙でしょう。これほんまにそれぐらい哲学的に考えてつけたのか、たまたまつけたのが当たったのか、私は分かりませんがね。よう考えてみたら本当に賢いですよ。こういうするさにみんなはまってくるわけですよ。心ある人々やこの考え方に、自分の身の中にある悩みとか、苦悩とかいうものに、ロータリーにはけ口を求め、あるいは安住の地を求めたというふうに思います。

それとロータリーの素晴らしいのは、ローテートですね。なんぼ威張っている人でも、1年たったら、ガ

バナーであろうが会長でも辞めるわけですね。あれはおかしいですね。なるときは、「嫌や嫌や」言っているのに、もう正月も過ぎて、そろそろ終わりが近づいてくると、「もう1年やってもええわ」とか言う人が出てくるんですよ。それでもう1年させたら、とんでもないことになるんですよ。そこで辞めさせるところには、ロータリーの非常にいいところがありますね。これがやはりロータリーが長持ちしている、人間でもそうですね。次から次に新しい細胞が生まれかわって、常にフレッシュである。ただバスターガバナーというのだけは、何でこんな死ぬまでつけるのか、これはよく分らんですが、これも時限で5年ぐらいで辞めたらいいと私は思うんですが、そういう提案をしても、だれも「そうだな」と言ってくれる人がないんですよ。バスターガバナーって何かちょっと良いことがないと私は思いますが、何か良いことがあるのかもしれませんけど、私はちょっとそのいい目にぶつかったことがないんですよ。

ロータリーのルールも、ドンドンと変わっているんですよ。時代と共に変わっていている。これはやはり非常にいいことですよ。実際国際的なこれだけの大所帯をコントロールしているんですから、これは本当に立派ですよ。先ほどから言うように、これは利益で釣っているのと違いますからね。これに入っていたら、何か得があるんだとしたら、それはある程度釣れるんですよ。でもロータリーに入って、精神的なものでは別ですよ。しかし、物質的とか、あるいは名誉とかそういうもので、釣ることはできないですよ。本当に自分の意思ですよ。それだけで100年も続き、これだけ大所帯を引っ張っているというのは、これはやはり大変なことでありますし、それに対する運営のある程度のルールというのは、もちろん必要だと思っんです。

しかし、ロータリーも1980年ぐらいからちょっと問題が出てきました。1980年に道徳律と言いまして、時間がなくて詳しいことは申しませんが、ロータリアンとしての一つの道徳を、こういうことでしようという幾つかの箇条書きの道徳律があったのですが、それが、ロータリーの基本的な文献から削除されてしまいました。

それから、私が一番頭にきたのは1989年にロータリーのモットーの、“Service above Self” “He profits most who serves best” の “He profits”

の方をモットーからはずそうという働きがあったんですよ。それは色々理由はあるのでしょうけれども、“profit” という言葉がロータリーに適さない。利益ってことですね。しかし私はこれはとんでもない、だれか余程あほなやつがおったと思うんですよ。“profit” というのは、何も物質的な利益だけと違うんですよ。精神的な利益も全部含めてです。日本のことわざでも、私の好きな中のトップグループに入っているのは、「情けは人の為ならず」ですよ。人に情けを施すと、自分はその人に情けを施したけれど、そしてその人から反対給付を受けようとは、ここから先も思っていない。しかし、結果として、情けを施された人は、直接その情けをもらった人には返せないにしても、あなたのお父さんに世話になった。お父さんには恩返しできなかったから、その子供さんにお父さんに世話になったから、何か私があなたにしてあげることありませんか。これは情けは人の為ならずですね。それは “He profits most who serves best” です。「最もサービスするものは、最も多く報いられる」、これが私はロータリーの基本中の基本だと思っていたんですよ。そしたら、どこかだれかが、「これはprofitというのはけしからん」と言ったわけです。

もう一つはその逆です。“Service above Self” と言いますが、これ結構です。けれど、私はこんな人、40年間もロータリーにいたけれど見たことない。やりませんよ、こんなこと。これはもし私が見たとしたら、戦争中の特攻隊とか、本当にあれは、“Service above Self” ですよ。それからプラットホームで子供がボーンと落ちたと。向こうから車が来た。しかし自分の身をかわさずその子供を助けるために飛び降りたとか、これは反射作用ですよ。そんな難しいこと考えていない。これは “He profits” とか、“Service above Self” とか、そんなことを思っています。「子供落ちた。助けたら」という瞬間的な動作で結果として、“Service above Self” というのがあるかもしれませんが、平常の状態において、自分に対するよりも人のために尽くすって聞こえはいいですけど、せいぜい自分と同じレベルにおいて、人に対してもそのことを思うということが、最高のレベルですね。本当に滅私奉公なんて異常な事態でやれることであって、正常な状態にこんなことはできない。できる人というのは、きっと1万人に1人かでしょうね。できないようなお題目をあげるなど。それよりも

もっとわかりやすいのは、“He profits most who serves best” と思うのですが、なかなかそういう強要的な人間が、段々ロータリーを支配してきたのではないかと思います。

『手続要覧』なんてあんなものいりませんよ。幹事になったり、何か役に就いて見る時に、そのページだけ見たいんであって、あんなものは全部読んだって、全部読む人ってちょっとおかしい人ですよ。そうでしょう。皆さん方、車を運転している時に道交法を全部知っていますか。知らんでしょ。日本国民やったら、日本の六法全集全部知ってなかったら、人生生活できませんか。六法全集って、そんなもの知らんでしょ。けれども、人を殺したらいかんぐらい分ってます。

人を傷つけたらあかんとか、迷惑をかけたらいかん、みんな常識です。ロータリーは常識なんですよ。常識を常識でびちとやったらいい。人のために尽くしたら喜ばれる。だから人のためにやってあげると。これ全部常識なんですよ。

ですが、その中でも特に素晴らしい23-34という、社会奉仕の基本的な考え方があるんですが、結果的には残りました。もっと気に入らんのは、気に入らんといいながら、私はそれで助かっているんですが、メイクアップが本来なら1週間、1週間だったんですよ。それを2週間、2週間にしたんですよ。それでメイクアップしやすくする。それから、テリトリーもはっきりとしたテリトリーだったのが、ぐちゃぐちゃですよ。どこからでもいらっしやい、いらっしやいやね。職業分類も何かルーズになりましたね。要するに全部ルーズにして、ロータリーはうるさい規則があるからかなんと言っている人も、いや、もうこんなだれでも入れますということで、「いらっしやい、いらっしやい、はい、いらっしやい」と言って、それで人を集めて会員を増やそうとしています。

私も今から20年前、1982~83年にガバナーになったんですが、その時に国際協議会とあって、ガバナーを集めてトレーニングされますね。その時に、ロータリーの偉い方が色々こういうセミナーをやられるんですよ。その時初めて一番がっかりしたことがあります。「皆さん会員をもっと増やしてください」と。それはいいんです。「こんなロータリーみたいな素晴らしい会に、会員を増やしてほしい」と嘘でも言ってほしかった。その人は、何て言ったか。「ロータリーの財政

は段々厳しくなってまいりました。一人でも多くの会員を増やしてください」と。嘘でもいいから、「こんな素晴らしいロータリーに、ちょっとでもお友達を入れてあげてください。この素晴らしいロータリーを味わせてあげてください。そうすることで、また会費も頂けるから、会費の方も助かって、ウインウインの関係です」と嘘でもいいから言ってほしかったのに、その人は正直なんですね。真実かどうかです。そやから、その人の頭は、そんな関係なく、要するに一人でも会員を増やしたら、ロータリーに何ドルか入ってきます。それがほしい。そういう人が、ロータリーの幹部にもいるというのは、大変滑稽というか、かわいいと思うか、頭にくるといふか、これは人それぞれやと思うんですけど、私は頭にきましたね。

そういうことで、極めて教条的であったり、極めてレベルが低かったりしているんですが、私は本当にロータリーも回りの友達も含めて増やしたいと思います。というのは、先ほどから言っているように、本当にこういういろんな本質的な悩みは、今現在の宗教でも解決できないし、国連といえども無力だし、救世軍に入ってもそういう問題は解決できないし、これはロータリーしかないんですよ。本当に、本当にこれからの人類どうしていくんやろうと。世界の平和をどうするんやろうということです。

私はその人に頭にきましたけど、ロータリーの国際協議会の時に、感激したことがあります。ちょうどその時に、フォークランドの戦争が会議中に始まったんですよ。イギリス対アルゼンチンですか。両方のガバナーノミニが来ていたんですよ。我々も何やと。ここで一堂に会して、こうしてみんなが世界平和を言っているのに、イギリスとアルゼンチンあれは何やと。急遽両方の国のガバナーノミニが立ち上がって「皆で決議しましょう」と。国連に対して、あるいは両方の大統領か、総理大臣かだれか知りませんが、そこへ手紙を送りました。「こんなことしたらいかん。世界平和でこんな戦いをしたらいかん」ということをアピールしたんですよ。それが契機でおさまったとは言いませんが、これがロータリーだと思いましたね。さっきの人の話とこの話で帳消しになりまして、帰る時にはちょっとこっちの方がよかったんで、ちょっといい気持ちで帰ってきたわけですね。

でも、こういうことのできるの、やはりロータリーしかないですね。そういう意味において、是非皆さ

ん方も悪い方を見たらいっぱいあるんですよ。世の中みなそうです。悪い方みたらあかん。ええ方を見る。是非いい方を見てほしいというのは、例えば、「100%」言うたらみんな「何やねん」と言う人多いですよね。100%してもらわんでもいいんですよ。それこそロータリーのルール見てください。60%以上出席したらそれでロータリアンの資格は保持されます。ホームクラブ30%以上、全体で60%以上出席したらいいんです。何で「100、100」言うんやと。人に言ってもらいたくないね。学校でもそうですよ。60点以上とったら及第です。親が100点とれ言っても自分は60でいいんやと。60のスレスレのところをいくというのも、なかなかあれスリルあっていいんですよ。それは好き好きなんですよ。何でかといったら、これ自分にあるんですよ。

そうは言いますが、私は最初入った年は100でなかった。次の年は、実は海外へ行きまして、残念なことにその国にロータリーがなかったの、メイクアップできませんでしたが、その次の3年目からは心に決めました。自分が、100%をどれだけ続けられるか。これはどういうことかといいますが、そのころは1週間、1週間でしょう。ですから、もうちょっと無理して、20日間以上病気で寝たら、これはもう絶対出席できませんね。それから会社の経営がおかしくなって、借金取りに追い回されたら、例会場に行っていたら、そこへ金を取りに来られたら大変だから行けませんね。家庭の中でも嫁さんとややこしくなったら、ロータリーどころではないです。そうすると、まず2週間以上は寝つかず健康である。会社も借金取りに脅されるような状態でない、うまくいっている。家庭内も色々小さいトラブルはあるかもしれませんが、あるけれど、そんな大変なロータリーのことを忘れるほど大きな問題もない。この3つが揃っているということは、その人が健全で幸福であるということでしょう。それなら、必ず100%取れるんですよ。だから取らない人は、無理して取ってないの。取ろうと思ったら取れるんですよ。

そういうことで、私はチャレンジした。それで、今もう43か44年目ぐらいですけどね。それでも絶対京都1になれません。もちろん世界1にもなれません。京都にすごい人がいたんですよ。実は私の子供の時の小児科の先生で、私がずっと診てもらっていた先生なんですけど、もうもちろん亡くなりましたが、その人がホームクラブ50年100%です。すごいでしょ。こうい

う人がおられるので、これはもう絶対その人には負けますわ。これからずっとホームクラブ出るにしても、130歳まで生きないとあかんし、それはもう無理ですからね。そういうことで残念ですが、しかしこれは皆さん知っておいてください。自己チャレンジなんです。人に言うてもらうことはない。ひどいクラブは、前あったんですよ。1人入院して、「あんたが明日欠席したら、クラブの100%がだめになる」と言うてね、担架持っていったクラブがあるけども、こんな人は人権無視も甚だしいですからね。こんなことだけは、絶対やめといしてほしい。

そういうことで、同じことでも100%を自己チャレンジと思ってやったら、これ楽しいですよ。私なんか、昔はソ連、モスクワにももちろんロータリーなかったから、1回1,800ドルのメイクアップしたんですよ。どういうことかと言ったら、モスクワからジュネーブへ飛びまして、それでジュネーブのロータリーでメイクアップしました。何でスイスへ飛んだかという、その頃、ソ連へ入国するのに、ビザが2週間も3週間もかかるんですよ。スイスだけが即日してくれるんですよ。それで一遍出国して、すぐ大使館へ行って、またロシアに入るビザもらいまして、明るる日の飛行機でまたソ連へ帰ったんですよ。それで1,800ドルかかりましたが、それが今までで一番高いメイクアップですね。これはそういう遊びですね。何でも面白おかしくやらなかったら、本当にロータリーなんかつまらなそう思えますね。皆さんどうぞ何か面白くやって頂いたら、大変ありがたいと思いますね。

それで、私がもう一つ頭にきていっているのは、京都オークラなんかもそうなんですけど、昼飯ね、みんなフォークとナイフですね。何やオードブルが出て、スープが出て美味しくもないステーキみたいなのが出て、デザートが出て、それで4,200~4,300円取られるんですよ。このごろ4,000円の昼飯食べるというのは、頭のおかしい人しかいないですよ。それが有閑マダムとかね。私は昼飯といったら、そばかうどんか、おにぎり2個とおいしい味噌汁と伊勢たくわん、もうこれで十分なんですよ。それを何でこんな4,000円の昼飯食べてですよ、アフガンの子はかわいそうや、ソマリアの子はぎしぎしになっているとか言っていたら、ちょっとおかしいの違いませんか。何考えているのかと思って、何度も言って、「大体みんなカレーライスかチャーハンか、焼き飯にせ」と言うと、ホテルから総スカンで

ですよ。京都中のホテルから私は今睨まれているんですよ。ですから、部屋代は出しますが、御飯はそんな贅沢なの食べたらあかんと思います。4,000円取ってもよろしいよ。そしたら1000円のカレーやったらあと3,000円いつでも100万ドルミールです。3,000円ずつですよ。それ4回やったら12,000円でしょう。それを1年続けたら、このままの状態でも15万円寄付できます。その方がよっぽどすごいです。そんな昼飯にこんな食べたって何の役にも立たない。そして医者から「みんなもっと減食せよ」と言われている人がほとんどです。何をしているんやというわけやね。そういうものすごい矛盾もあります。けれども、これは知ってやっているんですから、要するに確信犯なんですよ。みんないいと思ってないけれど、やっているんやからね。これはほんまにロータリーというところは、どういうところかと思うんですけどね。

もうそろそろ時間が来ましたが、皆さんもうそろそろ質問考えておいてください。そやから、問題はちょっと小泉さんの心境と似ているのと違いませんか。構造改革はやりたい。みんなも構造改革すべきであると言っているけども、何か抵抗勢力みたいなものがどこかにおいて、そんな人が「やめとけ、やめとけ」と言っている。結局抵抗勢力というのは、なかったかもしれんけど、言い出せない。逆に言うたら、これだけがちょっと社会常識とはずれていても、まだロータリーってこれだけ人がいるのだから、社会常識に近づけていいたら、まだまだ発展するという可能性があります。今が最高の状態やったら、これからロータリーはもう発展しません。私どもの会社でも言うんですよ。「会長、こんなことしてたら会社つぶれまっせ」とか、「こんなあほなやつがいます」とか、もういっぱい言うてくれるわけ。私は、「そうかそうか。ええな、ええな」って言うの。「何言うてはるのです」。色々問題を持っておたて、うちの会社今動いているやんかと。それ一つひとつつぶしていったら、全部プラスになるんやから、これは将来性ある会社やと。合理化も全部してもう真っ裸になりました。それでもこの程度でしたら、これから悪くなる一方でしょう。だからロータリーもいいんですよ。いっぱい欠点があればあるほど、ロータリーの将来は素晴らしい。こういうふうにはやり物事を考えないと生きていけません。是非皆さん方、ロータリーというのを難しいとか、何やかんや言わんと、本当に一つひとつをちょっと違う観点から見ると、



そうすることによって、ガラッとロータリーに対する考え方が変わってきますよ。

特に入ってから、2~3年目ぐらいで倦怠期が必ず来ます。私に倦怠期が来た時に、今度来年大阪で国際大会がありますが、たまたま日本で初めて東京で国際大会が開かれたんですよ。これは1960~61年の時代ですね。私らは新入会員で若かったですから、まだ30ちょっとやったから、それで何をしたかという、副SAAの役をもらいまして、ようやく東京の晴海に行ったんですよ。何するんかと思ったら、4つほど晴海の大きな展示会場、今でもありますけど、その入口が4つか5つあるんですよ。そのドアを守るのですね。何でかといったら、向こうは1万5,000人しか入れないのに、2万5,000人ぐらいの登録がありまして、先着順でそこへ入るんですよ。そうすると、牛の暴走みたいなもんです。もうロータリアンというような顔ではなく、みんな必死の形相で、席を取りに入る。それが大体1万5,000人ぐらいになったら、ドアを力任せに閉めるんです。これが副SAAの役割でした。

しかし、約束がありまして、内側から閉めますから、私たちは本当なら入れない本会場のところに座れたんですよ。そこで、当時の会長が、エド・マックローリンという人で、その人が演説をしました。よく分らなかったんですが、最初と最後に“You are Rotary.”と言います。“You are Rotarian”と違うのかなと。それがいいところです。「あなたがロータリーなんですよ」ということね。ロータリー悪いとか、しょうもない、あんたロータリーでしょうに。ロータリーがしょうもないということは、あんたがしょうもないんでしょう。ロータリーが素晴らしい。あんたが素晴らしいからやということですよ。私はこの言葉を聞いて、あっそうやと。それまでロータリーの批判ばかりしていたんです。“You are Rotary.”“I am Rotarian.”と違うんですよ。“I am Rotary.”私はロータリーなんだ。ロータリー面白いで。おまえがしょうもないねん。自分がしょうもないからロータリーがしょうもないねん。こういうことで、今まで分ったような分らんような状態できてますが、どうか皆さん方も是非ロータリーというのは、楽しく暮らさんといかん、自分の人生の中の素晴らしい糧の一つとして、ロータリーの存在というものをもう一度考えて頂いたら、いいことが出てくるというふうに思います。

あと6分あるんですが、是非質問してください。な

ければ、私はショックで帰りがけにどこかへ飛び込むかもしれません。どうぞ。

Q) 2650地区の堀場さんに途中で線路の上に横になられても困りますので、ひとつ話をさせて頂きます。

私の経験からしますと、世界どこへ行っても、本当にフレンドリーに迎え入れてくれるというのは、組織として2つあると思うんです。その1つはロータリーで、もう1つは教会ですね。ところが、こうして今日は2650地区ですから、比較的小さく顔見知りも多いですけども、ロータリーのバッジをつけていましても、電車の向こう側に座っておられる方が、違うロータリーですと、もうウンともスンともニコリともなさらないね。これはちょっと私おかしいと思っているんです。それでひとつ2650地区は、バッジをつけていたら、「こんにちは」ぐらい言うようにという運動を堀場さんのような方に進めてほしいと思うんです。

それからもう一つは、現実はこのクラブも会員が減少ということで、困っておられるわけですが、内にこもり過ぎていると思うんですね。ですから、難しいことを言わないで、ロータリーに来てみんなから喜んでもらい、そして地域の人にも、「さすがロータリーやな」と言ってもらうためには、何もそれを求めるわけではないんですけども、いいことをして喜んでもらうと。だからお金かけるだけで、何もせんというのでは、顔が見えないと批判されますので、是非クラブとしてそれぞれに何かいいことをして、そして喜んでもらうと。幸福とは何かということ、お役に立っているということだと思しますので、そういう運動を2650地区で進めたいと思います。

A) ありがとうございます。歌にもありますように、「どこで会ってもやーつと言おうよ」って。私も時々変な顔されることもあります。「あなたロータリーでしょう」「ロータリーです」「どこのロータリーですか」「どどこ」「あっ、そうですか」と言っているのに、「だから何やねん」という顔をされる時もありますけども、これは、お互いにやりましょうね。ちょっと嫌な顔されてもいいですよ、やりたいと思いますし、おっしゃるとおりです。私はロータリーのサービスというのは、例えば、社会奉仕をクラブで色々考えて頂くのも大変ありがたいんだけど、最終的にロータリーというのは個人なんですよ。ロータリアン一人ひと

りなんですよ。ロータリアンが、一人ひとりの自分の人生の中において、社会人として、あるいは職業人として自分のロータリアンとしての価値観で過ごしていくということの、いわばトレーニングの場として、ロータリークラブの活動があるのであって、あくまでも最後は自分一人ひとりの人が、「あの人立派やな、やはりロータリアンやったな」というふうなロータリアンになってほしいと思いますね。

Q) 先ほどのお話の中で、一番最後の方に私は若い時は、批判ばかりしていたとおっしゃったと思うんですけども、僕も入って、何に批判をするかということもまだ分からないんですけども、特に昔を思い出して頂きまして、何に対して批判してられたのかお聞かせください。

A) やることなすことね、そのころの時代からいうとおかしかったんですけどね。今は歌を歌うということは、いい年の人が歌うというのは、あんまり珍しいことではないです。カラオケがあるからね。今から40何年前で、いい年の人が、小学唱歌みたいなのを歌うわけでしょう。それがまた音痴なんですよ。それを食事の前に聞かされるだけでも食欲が……なるとかね。それから京都クラブでもいい格好して、私が国際奉仕のテーブルへ入ったら、日本人同士やのに英語でしゃべるんですよ。何やこれは。外人が来て英語でしゃべるんならいいけど、日本人同士で英語でしゃべって、おかしなところやなとか、これがインターナショナルかとか思っていたんだけど、とにかく自分の今まで過ごしてきた人生と全然違いますからね。「何やこれ、いろんな人たちがいるな」とか色々思っていましたね。けれども全部“You are Rotary.”です。「そうか自分は自分の道を行く」と。これから気が楽になりました。

Q) ガバナーとかバスターガバナーにお伺いします。新入会員のセミナーでございませう。入会されて何年ぐらいして、ロータリーに入ってよかったとか、楽しみというのがわかるようになったでしょうか。10年か、20年でしょうか。

A) それはその人によって、同化力があるかどうかとか、熱心なのかどうかとか、不熱心なのかによって全部違うと思うんですが、私の言いたいのはバイオリズ

ムがあるんです。ちょっと面白かったらガーッとやり出すでしょう。そうすると必ずしょうもないことが起こってくるんですよ。「何やねん」と思ってまたさぼってますね、そうすると古女房みたいなもので、またちょっと恋しくなるんですよ。それでまた、そやそやと思って行くと、またこう……、これほんまは女房と一緒にです。あんまりベタベタするとうるさいし、離れると何や懐かしくて、こんなもんです。永久にロータリーはこんなもんです。お答えにならないかもしれませんが、そんなもんですねん要するに。

時間です。どうもありがとうございました。